



神戸市緑の基本計画 グリーンコウベ21プラン

「緑とともに永遠に生き続ける都市=緑生都市」を目指して

2011年3月

概 要 版

神戸



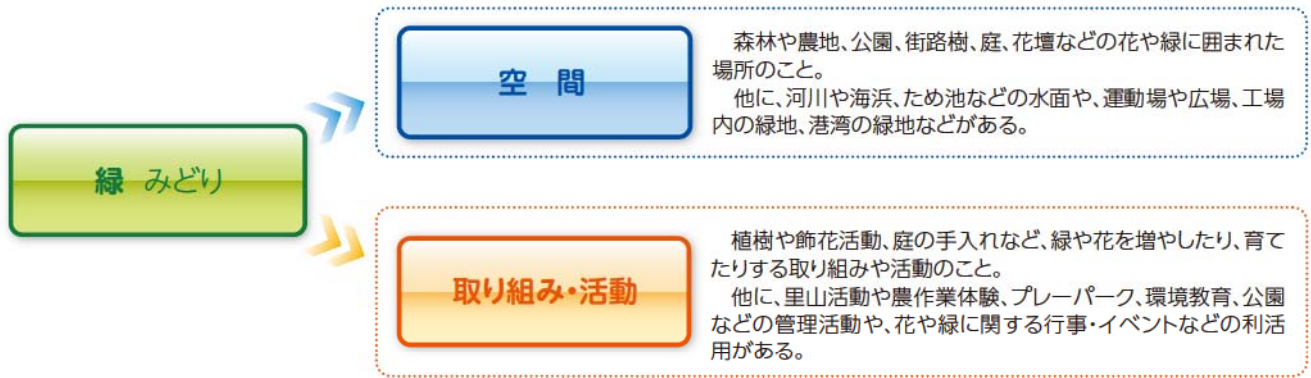
はじめに

山々や田園、まちなかの公園や街路樹、庭や花壇など緑に関する長期的な総合計画として、「神戸市緑の基本計画(グリーンコウベ21プラン)」を2000(平成12)年7月に策定しました。これまでに10年以上が経過しましたが、この間「人口減少、少子・超高齢化の進行」、「生物多様性の危機」など緑をとりまく情勢は大きく変わってきています。

そこで、これまでの震災復興の取り組みをはじめ10年間の緑のまちづくりを検証・評価するとともに、社会経済情勢の変化やこれからの緑のまちづくりに求められる新たな視点を踏まえ、改定を行いました。

「神戸市緑の基本計画」における緑とは

本計画では、植物やオープンスペース、水面等で構成される「空間」だけでなく、飾花活動や里山活動など、その空間を使った「取り組み・活動」も含めた広い意味合いをもつ「緑 みどり」を対象としています。



本計画で対象とする緑のイメージ

基本理念

神戸が50年、100年後も緑が豊かで輝いている都市、生命に満ちあふれた都市であることを願い、

「緑とともに永遠に生き続ける都市=緑生都市^{りょくせいとし}」

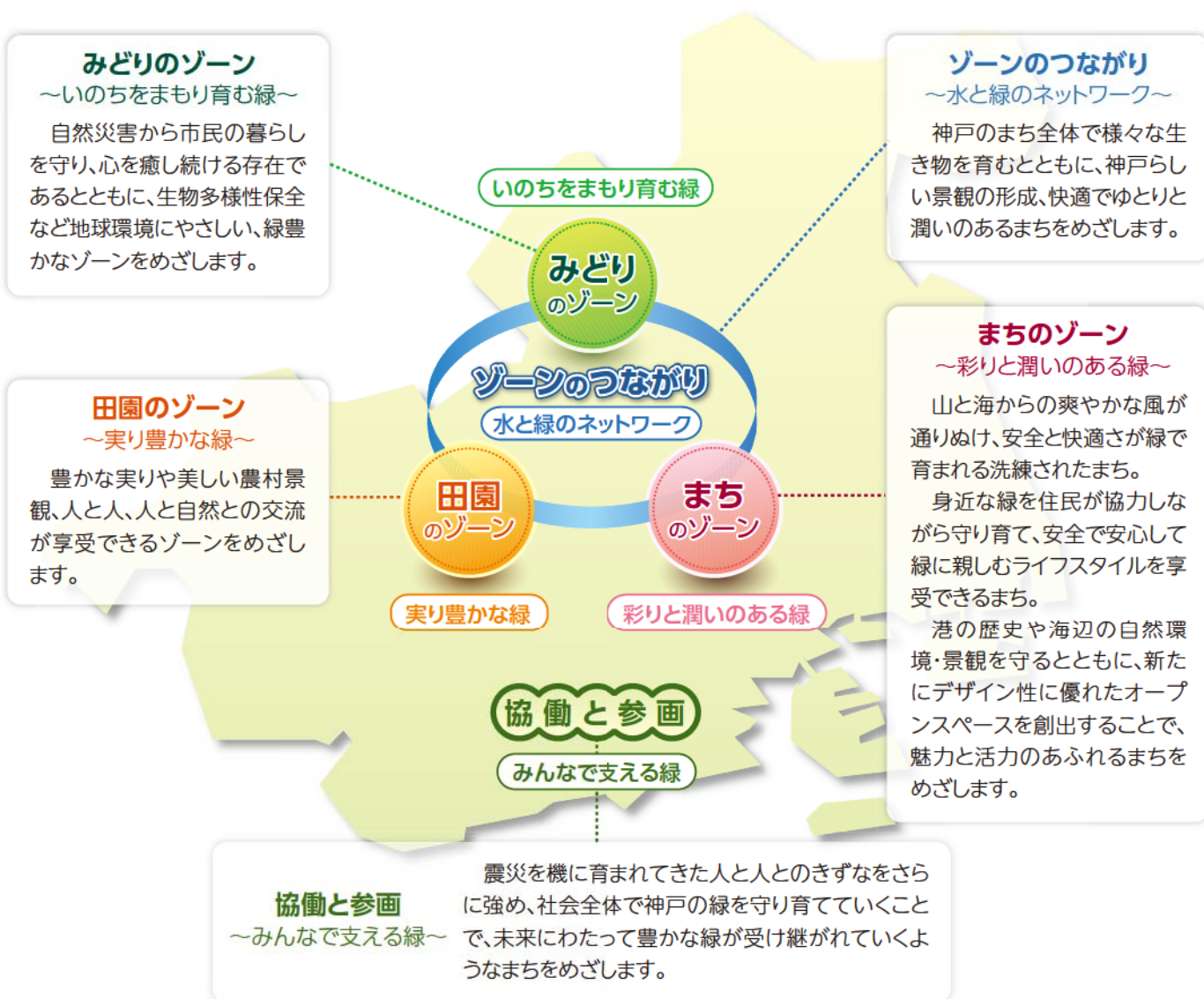
を緑の基本計画の理念として継承します。

計画の目標年次

目標年次は2025(平成37)年とします。

緑の将来像

神戸が持つ山やまち、田園の特性に合わせた緑の取り組みを展開し、それぞれが水と緑によってネットワークするとともに、協働と参画による人と緑の関わりによって、市民みんなで神戸の緑を支えることで、まち全体がいつまでも豊かな水と緑に包み込まれたまちをめざします。

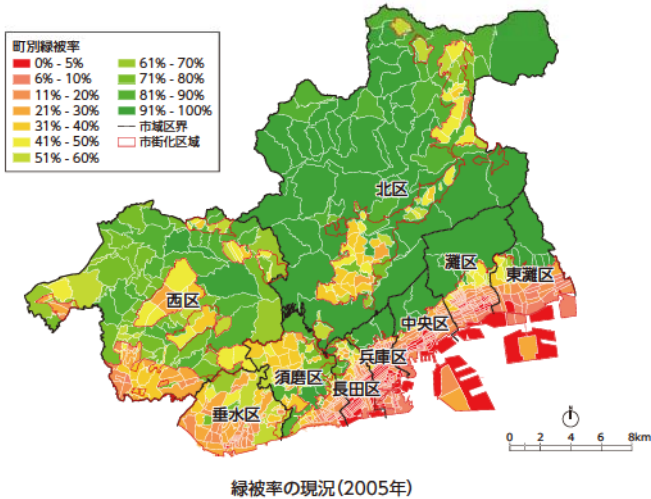


緑の現況

①緑被率

緑被率とは、一定のエリアのうち緑が占める割合のことで、神戸では緑被率は68.5%と、全市域の7割近くが緑で覆われています。このうち、市街化区域でも緑被率は32.9%あり、大都市でありながら緑が多い都市といえます。

市街化区域の緑被率を区別に見ると、丘陵地等を多く含む北区、須磨区、垂水区、西区などが大きくなっています。一方、中央区、兵庫区など、六甲山南麓に広がるまち中では小さくなっています。



緑の現況量(市街化区域)(2005年)

区名	面積 (ha)	緑被面積 (ha)	緑被率 (%)
東灘区	2,304	385	16.7
灘区	1,199	246	20.5
中央区	2,034	203	10.0
兵庫区	930	109	11.8
北区	4,277	2,352	55.0
長田区	973	194	19.9
須磨区	2,154	856	39.7
垂水区	2,700	1,000	37.0
西区	3,868	1,375	35.6
市全体	20,440	6,721	32.9

②六甲山の緑化のあゆみ

六甲山の緑は、多くの水を蓄えることができ、土砂災害からまちを守る重要な役割を担うとともに、多くの観光客や、登山・ハイキングなどを楽しむレクリエーションの場としても親しまれています。

しかし、神戸港が開港した1868(慶応3)年頃の六甲山は、樹木の伐採や山火事で山肌が見えるほど荒れ果て、頻りに土砂災害が起きていました。そのため、1902(明治35)年から、災害を防止し、水源を守るための大規模な植林が始まり、今日まで100年以上もの間、緑化の取り組みが営々と続けられてきました。

これからも、災害に強く、美しい山並みの六甲山であり続けるためには、植林はもとより、間伐や下草刈りなどの手入れを行っていく必要があります。



明治36年(1903年)



明治41年(1908年)



大正2年(1913年)



現在の六甲山

③公園面積

神戸市には現在、1,598カ所、2,607haの公園があり、市民一人当たりの公園面積は約17㎡となっており、他の政令指定都市と比較して最も高い整備水準となっています。暮らしに身近な公園である住区基幹公園で各区を比較すると、ニュータウンの割合の高い西区、北区では、一人当たりの公園面積が平均より多く、古くから市街地が形成されている六甲山南麓に位置する区では平均よりも少なくなっています。

区別の公園面積(平成21年度末)

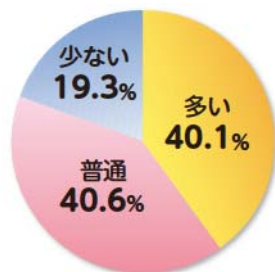
種別 区別	人口(人)	住区基幹公園 (街区、近隣、地区)		その他総合公園等(ha)	全体(ha)	1人当たり 公園面積(㎡/人)
		面積(ha)	1人当たり 公園面積 (㎡/人)			
東灘区	208,842	51.8189	2.48	1,952.1893 ●須磨浦公園 ●須磨離宮公園 ●神戸総合運動公園 ●神戸青少年公園 ●森林植物園 ●しあわせの村 ●布引公園 等	2,607.3264	16.97
灘区	130,981	30.7350	2.35			
中央区	122,476	48.1042	3.93			
兵庫区	108,483	33.4979	3.09			
北区	226,710	134.8041	5.95			
長田区	101,518	24.2009	2.38			
須磨区	168,398	86.0076	5.11			
垂水区	219,936	71.7571	3.26			
西区	249,341	174.2114	6.99			
合計	1,536,685	655.1371	4.26			

(注)市内にある県営公園を含む

市民意識(平成19年実施「神戸市1万人アンケート」より)

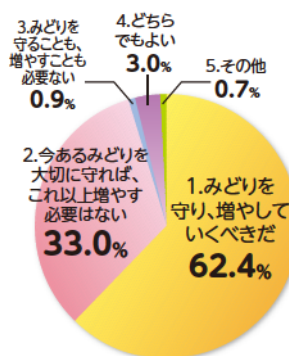
①身近なみどりが「多い」と感じている人の割合

身近な「みどり」について、「多い」と回答した人が40.1%で、特に北区、須磨区、西区など郊外住宅地や農村地域が存在する居住区で高い傾向が見られました。



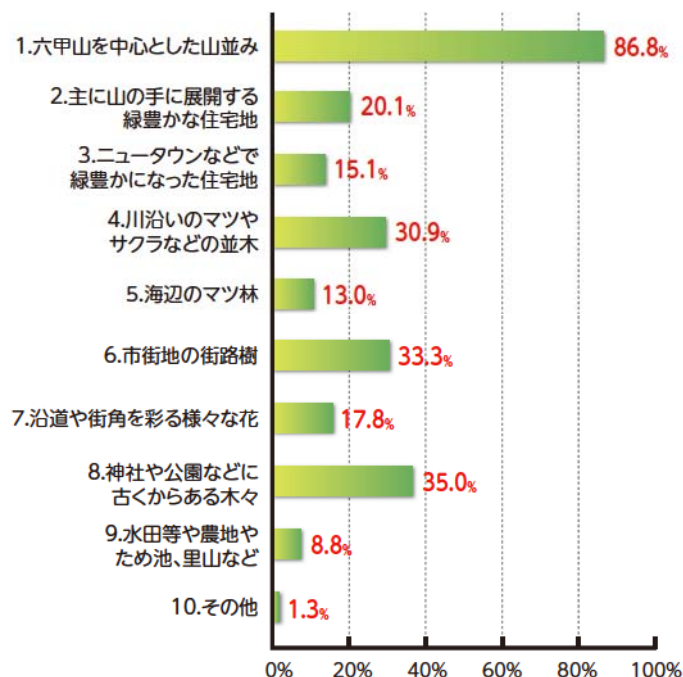
②「みどりを守り、増やしていくべき」と感じている人の割合

お住まいの地域のみどりを「守るべき」と回答した人の割合は95%以上で、その中でみどりを「増やすべき」と回答した人は60%を超えており、さらなる緑化を求める人の割合も大きくなっています。



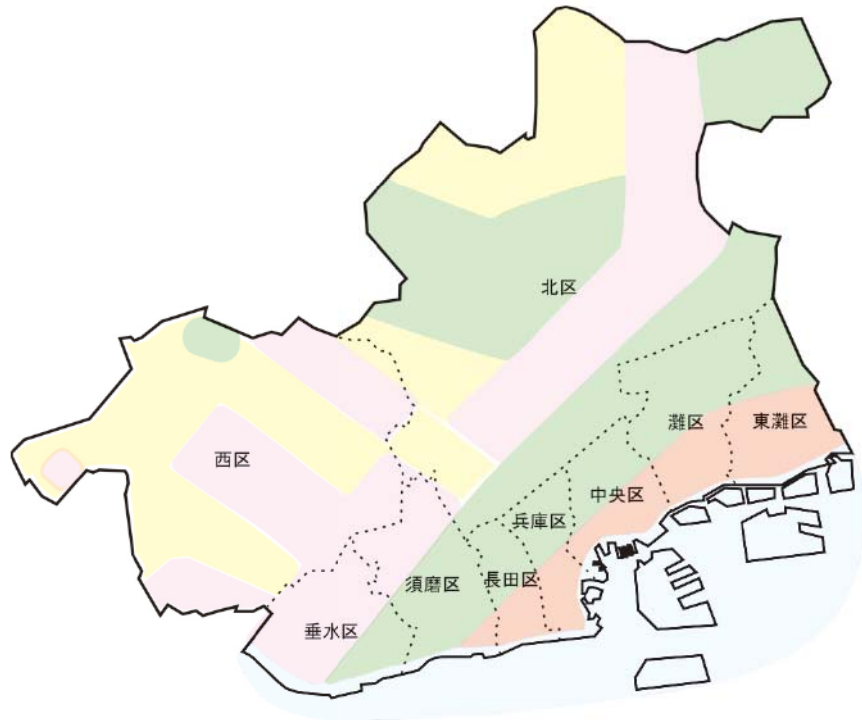
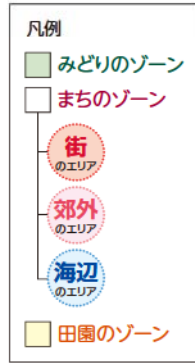
③「神戸らしい」みどりと感じる景観

「神戸らしい」みどりと感じる景観は、「六甲山を中心とした山並み」が86.8%と最も高く、緑豊かな六甲山が神戸のシンボルとしてとらえられています。



緑の都市空間構成

神戸のもつ地理的・地形的な特徴や、これまでの緑に対する取り組みの歴史、緑の現況等を踏まえると、緑の都市空間構成は以下に示す3つのゾーン(まちのゾーンは3つのエリア)に分けることができます。



◇まちのゾーン

●海辺のエリア

瀬戸内海に面する臨海のエリア。
都心・ウォーターフロントやポートアイランド等からなるエリアと、須磨以西の海浜レクリエーションエリアに大別されます。

◇まちのゾーン

●街のエリア

六甲山南麓部に位置し、開港以来形成されてきた市街地で、水害や戦災、震災など幾多の災害を経験しながらも、復興をとげてきたエリア。

◇みどりのゾーン

神戸の緑の骨格を形成する六甲山系や帝釈・丹生山系、及び鎌倉峡、雄岡山・雌岡山周辺など豊かな自然環境が残っているゾーン。

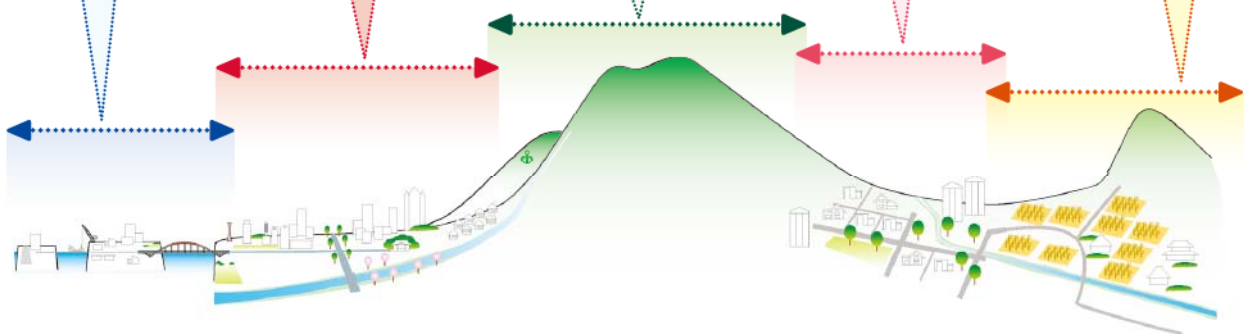
◇まちのゾーン

●郊外のエリア

西北神の丘陵地などで、高度成長期以降に開発された大規模住宅団地などが広がるエリア。

◇田園のゾーン

西北神に広がる農地・集落・里山を中心とし、貴重な田園風景や豊かな自然が残っているゾーン。



港の風景



都心の街路樹



六甲山系



郊外住宅地



ニュータウン近郊の田園風景

社会経済情勢の変化と今後求められる視点

社会経済情勢の変化への対応

変化① 人口減少、少子・超高齢化の進行

- 都市内の人口流動による土地利用の変化や空き地等の増加
- 高齢者の健康づくりや子育ての場となる緑ある空間の必要性
- 農家人口の減少や高齢化に伴う不耕作地の増加、緑を支える地域活動のあり方

変化② 地球環境問題の顕在化

- CO₂吸収源やヒートアイランド現象の緩和、生物多様性保全につながる緑のあり方

変化③ ライフスタイルや価値観の多様化

- 様々なライフスタイルを受け入れ、日々の暮らしを豊かにする緑のあり方

変化④ 激化する都市間競争

- 緑による神戸らしさの演出と様々なICT(情報通信技術)を活用した情報発信
- 神戸のシンボル六甲山をはじめ、様々な緑の魅力向上と情報発信

変化⑤ 地域主権とさらなる市民参画の推進

- 緑の資産の有効活用と適正な維持管理
- 様々な人の力で、様々な人が恵みを受ける仕組み



これからの緑のまちづくりに求められる視点

視点① あらゆる災害に備え、暮らしを支える安全で安心な緑

- 自然災害の発生防止や水源涵養に寄与する緑
- 地域の防災力の向上に寄与する緑
- 安全で安心して利用できるオープンスペース
- 自然災害の記憶と経験の継承、防災意識の向上につながる緑

視点② 人と環境にやさしい緑

- CO₂吸収源としての緑
- いのちのつながりを支える緑
- ヒートアイランド現象を緩和する緑
- 誰もが利用しやすいオープンスペース

視点③ 魅力と活力を高めるデザインされた緑

- 景観の向上と賑わいを創出する緑
- 歴史や文化資産と一体となった緑
- 豊かな暮らしを演出する緑

視点④ 協働と参画のさらなる推進

- 人と人とのつながりを築く緑
- 緑を社会全体で支える仕組み
- 緑を学び、伝える仕組み



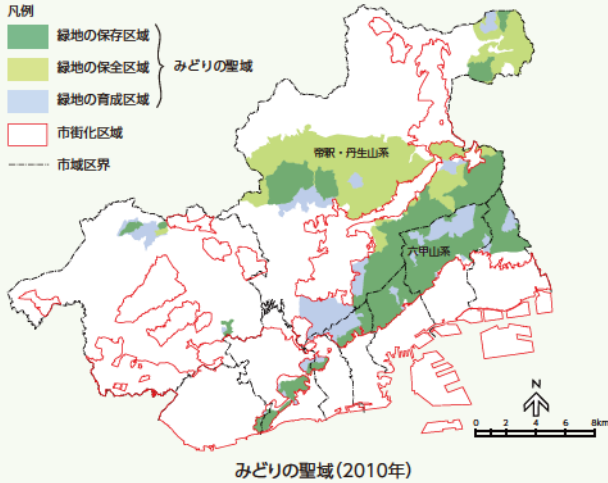
みどりのゾーン ～いのちをまもり育む緑～

方針 1

六甲山系や帝釈・丹生山系など都市の骨格となっている緑を保全・育成・活用し、市民のくらしや自然環境、美しい景観を守ります。

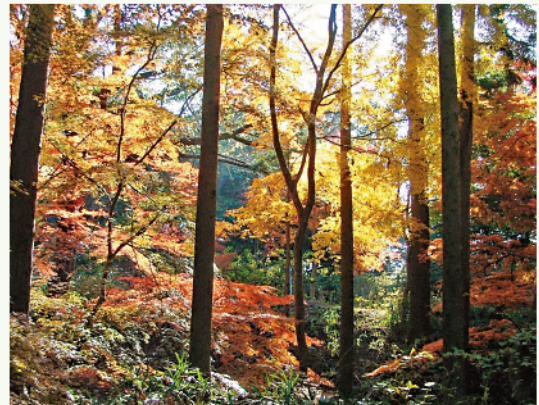
◎みどりの聖域づくり

六甲山系や帝釈・丹生山系などの貴重な緑地を、一定の行為制限や適正な維持管理を行うことにより、将来にわたって良好に保全します。



◎森林保全・育成の強化

自然災害に強く、生物多様性に富んだ質の高い森林を形成するため、スギやヒノキ林(人工林)での針葉樹と広葉樹の混交林化や、コナラやカシなどが生いしげっている林(二次林)での間伐を推進します。



針葉樹と広葉樹が混じった林(混交林)

◎自然災害から人とまちを守る森づくり

国や県と連携して、治山砂防事業や六甲山系グリーンベルト整備事業などに積極的に取り組み、災害に強い森づくりを推進します。



◎森林を守り育てる仕組みづくり

社会全体で森林を守り育てる仕組みづくりを行います。また市民主体の森林保全活動との連携を図るとともに、森林を支える人材づくりに取り組みます。



こうべ森の小学校

◎六甲山系の景観の保全・向上

新緑や紅葉、花など、四季を感じることができる美しい森づくりを進めるとともに、マツ枯れや被害拡大が予想されるナラ枯れへの対策をすすめ、景観の保全・向上を図ります。



六甲山の紅葉

◎在来種主体の森づくり

海外や他の地方から持ち込まれた樹種(外来種・移入種)を、六甲山に本来生育する樹種に転換することで、多様で安定した森づくりを行っていきます。

◎森林レクリエーション施設の充実

ハイキングコースの適正な維持管理や案内板の設置、展望台の眺望の向上を図るとともに、六甲山の登山文化を神戸の魅力の一つとして広く発信していきます。

まちのゾーン ～彩りと潤いのある緑～

方針2

街
のエリア

郊外
のエリア

海辺
のエリア

緑の資産を適切に維持管理・更新し、利活用を促進することにより、安全で快適な空間をつくります。

◎時代のニーズに対応した公園施設等のリニューアルと適切な保全

公園等について、健康づくりや子育てしやすい環境づくりなど多様な世代のニーズに合わせたリニューアルを進めます。また、既存施設の損傷や劣化を将来にわたり把握し、効率的な維持管理や補修等を行っていきます。



交通公園のリニューアル(小奇公園)

◎公園等の安全性の向上とバリアフリー化

誰もが安全で快適に利用できるように公園等の安全性の向上やバリアフリー化に努めます。



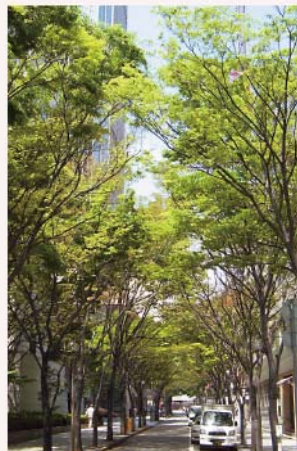
園路のバリアフリー化



公園で安全に遊ぶ学習
(こうべ みち・みず・みどりの学校)

◎街路樹による風格あるまちなみづくりや心地よい木陰の確保

樹種や道路特性に応じた適正な維持管理を行うとともに、樹木内部が腐ることによる倒木や根上りによる歩行者の転倒事故などを未然に防ぎ、健全な街路樹を育成していくために、街路樹の更新を行います。



都心の街路樹



樹木の診断調査



街路樹の剪定

◎シンボルとなる公園の魅力向上

公園のもつ豊かな自然や歴史資産などを大切に守り育て、積極的に情報発信します。また文化や観光の拠点となっている公園では、民間の持つ経営知識・情報・経験を活かしながら、さらなる魅力やサービス、利便性の向上を図ります。



◎地域コミュニティの日常的な美化・防犯活動等による安心空間の形成

公園などが、日ごろから親しまれることにより、犯罪のない安全で安心な空間となるよう、まちの美緑花ボランティアによる公園の清掃などの美化活動や見守り活動を推進し、「自分たちの安全は自分たちで守る」という意識の向上を図ります。

◎市民主体による緑花の推進

地域のまちなみ景観の向上をめざし、花壇や住宅のガーデニング、玄関先の緑花等を推進するとともに、緑花に関するコンクールや講習会の開催など市民による緑花の取り組みを支援します。

◎緑地保全配慮地区の指定

市街地において、良好な都市景観を形成している地域や、緑豊かなニュータウンなどを、特に緑地の保全に配慮すべき地区として「緑地保全配慮地区」に指定し、緑豊かな神戸らしいまちなみ景観の保全・向上を図ります。

まちのゾーン ～彩りと潤いのある緑～

方針3



洗練された緑花により、まちの魅力に磨きをかけます。

◎神戸の顔を装うハイセンスな緑花

観光スポットなど神戸の顔となる場所では、「おもてなしの心」を花や緑に込めて市民や企業の協力を得ながら、デザイン性に富んだ緑花を展開します。また、市民の花「アジサイ」や区の花などを活用し、神戸らしさを演出していきます。



デザイン性を考慮したまち中の飾花



区の花を活かした緑花(北区 クリサンセラムストリート)

◎新たな緑のランドマークづくり

(新たな“緑の神戸ブランド”づくり)

洗練された神戸のイメージをさらに推し進め、訪れた人々の印象に残るようなランドマークとなる、新たな緑の見せ場づくりを行います。



鉄人28号モニュメント(若松公園)



花時計

◎“あいまい”空間がもたらすまちの魅力

公園や歩道、公開空地、建物と建物の間など、まち中で見られる“あいまい”な敷ぎわ空間や、すきま空間を、人々が憩い、賑わう場となるよう、緑花の工夫や様々な団体との連携によって、有効活用します。



まち中のオープンスペースでの緑花(旧居留地)

方針4



緑をまもり・うみだし・つなぐことで、災害に強く、快適なまちをつくります。

◎密集市街地等でのオープンスペースの創出

オープンスペースが身近になく、必要性が高い地域では都市公園等の確保を図ります。また、学校の統廃合や公共施設等の用途の変更などの機会を活用し、財政負担の少ない方法でのオープンスペースの創出を図ります。



校庭跡地を公園として整備(二葉公園)

◎河川と河川沿いの公園緑地等の一体的な整備

住吉川・石屋川・都賀川・生田川・新湊川・妙法寺川の6河川において、公園緑地や親水護岸等の一体的な整備や適正な維持管理により、火災時における延焼防止や避難路の確保、消火用水や生活用水への利水のほか、レクリエーション空間や潤いのあるまちなみ景観を形成します。



親水護岸整備(都賀川)

まちのゾーン ～彩りと潤いのある緑～

方針5



住宅地内及びその周辺の緑を活用して、様々な人が緑と触れ合うことにより、良好な住環境を形成します。

◎地域コミュニティによる身近な緑花活動の推進

郊外住宅地内にある公園や街路樹、緑地、庭木、花壇など豊かな緑の資産を活用し、家庭や地域団体、事業者等と連携し、緑の維持管理や花壇育成活動をきっかけとした特色ある美しいまちづくりを推進します。



オープンガーデン

◎郊外地の特徴を活かした緑とのふれあいの推進

郊外住宅地周辺に広がる里山や農地などを活かし、森の手入れや農業体験など緑とふれあう機会を増やすとともに、田園地域との交流を展開します。



里山の手入れ

方針6



開港の歴史や文化的資産を活用し、都心・ウォーターフロントの新たな魅力を創出します。

◎神戸らしい景観を眺める視点場(見る場所)と緑の眺望路の確保

神戸の特徴である海辺の景観や、海辺からみる六甲山の景観などを快適に眺めることができるように、「視点場(見る場所)」となるオープンスペースや眺望路を確保します。



ポニーアイしおさい公園からの眺望

◎市民や事業者との協働によるオープンスペースの利活用

みなとのもり公園(神戸震災復興記念公園)やメリケンパークなどのオープンスペースを活用して、市民や事業者との協働による様々なイベントの開催や、港の醸し出す雰囲気を活かした文化・芸術活動の取り組みを推進することにより、賑わいのある空間を創出します。



市民主催のガーデンカフェ(みなとのもり公園)

方針7



須磨から垂水・舞子に至る海辺の魅力向上を図ります。

◎レクリエーション拠点の魅力向上

須磨海浜公園やアジュール舞子などの海辺のオープンスペースにおいて、イベントやスポーツ、レジャー等幅広い利活用を推進します。

また施設の更新や魅力の向上、散策ルートの回遊性を高めるとともに、新たな緑花等により、明るく開放的な雰囲気づくりをめざしていきます。



アジュール舞子

田園のゾーン～実り豊かな緑～

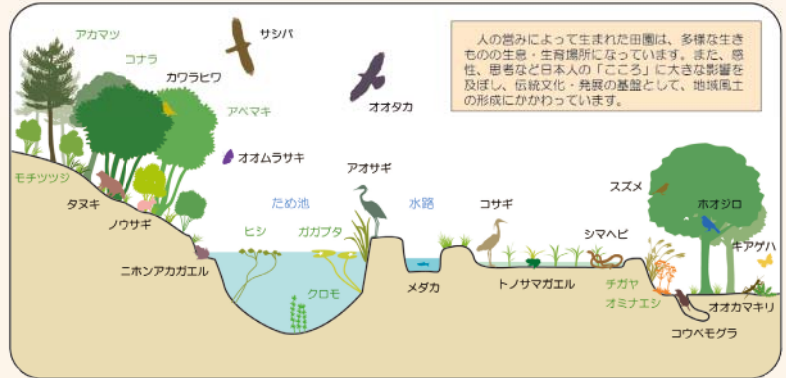
方針8

生物多様性保全の拠点をつくり、先導的な取り組みや情報発信、意識啓発を図ります。

◎様々な生き物を育む田園環境の保全の推進

田園地域の農地やあぜ道、ため池、里山等は人と自然との関わりの中で維持され、農業生産の場としてだけでなく多様な生き物の生息空間を創出してきました。

これからも多様な田園環境をあらゆる主体が参加することによって適切に保全し、次世代に引き継いでいきます。



田園の生態系の模式図(生物多様性 神戸プラン2020より)

方針9

田園コミュニティの拠点の創出や里づくりにより、農村と都市との交流を促進します。

◎田園地域におけるコミュニティ拠点の整備促進

コミュニティの形成や活性化のために、地域住民の交流やスポーツ・レクリエーションの拠点となる公園を地域と協働で整備します。



地域交流イベント(田園コミュニティパーク)

◎個性豊かな緑の里づくりの推進

農村での営みを通じて育まれてきた田園環境や農村文化、社寺林などについて、地域の特性に応じた、地域主体による適切な保全と活用を図ります。



農村歌舞伎(国営明石海峡公園神戸地区)

ゾーンのつながり～水と緑のネットワーク～

方針10

みどり・まち・田園をつなぐ水と緑のネットワークを形成します。

◎水と緑のネットワークの形成

六甲山系をはじめとする森林や西北神に広がる農地、市街地の緑地や海浜などの拠点となる自然空間と、それらをつなぐ河川・水路・街路などの軸となる自然環境を適切に保全・育成・創出します。

それにより快適な都市環境の保全やゆとりと潤いが実感できる景観の形成を図るとともに、生き物の生育・生息の場や移動経路としての役割を担う、「水と緑のネットワーク」を形成します。



水と緑のネットワークイメージ

協働と参画～みんなで支える緑～

方針11 緑とのふれあいによって、地域のきずなを育みます。

◎花や緑の活動を通じた地域コミュニティづくり

公園緑地での美化活動や花壇づくりなどの推進を図るとともに、地域の中の空き地を地域の意味で花壇や菜園など自由度のある利用ができるように仕組みを整えることによって、人と人のつながりをより一層豊かなものとしていきます。



◎身近な公園等における防災活動の推進

地域コミュニティの核となるオープンスペースを利用した防災活動を通して、災害に備える市民一人ひとりの防災意識の向上や、災害時に互いに助け合うコミュニティの形成を図ります。

方針12 緑の恩恵を受けるすべての人が、神戸の緑を支えています。

◎民・学・産と行政の適正な役割分担や自律的な行動

緑を社会全体で守り育てていくため、各主体がそれぞれの役割について認識し、各主体の持てる力と特性を発揮して、協働と参画をさらに進めます。

◎緑の保全・育成・創出や利活用に関する合意形成

市民アンケートの実施やワークショップなどの手法を用いて、市民や事業者、緑に関係の深い団体からの声を的確に把握します。また、緑の大切さや取り組み内容などについて、情報伝達手段を効果的に活用し、相互理解に努めます。

◎緑を支える人材の発掘・育成

市民共有の財産である緑を守っていくために、緑の保全・育成の取り組みの担い手となる人材の発掘や、緑に関する専門的な知識や技能を持った人材、緑を支える活動の企画・コーディネートスキルをもった人材を育成していきます。



方針13 緑から学び、緑を継承していきます。

◎緑に関する情報発信

森林、田園、公園緑地など魅力ある緑の資源や市民、学校、事業者などによる緑花の取り組みなど、緑に関する幅広い情報をホームページやメールなどのICT(情報通信技術)をはじめ、様々な情報媒体を用いて効果的に広く発信・共有していきます。

◎次世代を担う子どもや青少年の育成

自然豊かな屋外空間において、プレーパークの展開やプレーリーダーの育成、学校・地域等が連携する仕組みを整えます。また、青少年にとって関心の高いニュースポーツやダンスなどの活動を行うための居場所づくりに取り組みます。

◎環境学習・生涯学習の推進

活動団体、企業、学校、専門家等との協働により、森の手入れや農業体験、水辺の自然観察会などの環境学習や生涯学習を推進します。



小学生の環境学習(井吹思い出広場)

緑の戦略プロジェクトとは

人々のライフスタイルや価値観の多様化に伴い、人々の心の豊かさ、生き方が重視される社会へと変わりつつあり、あわせて都市のあり方も変容してきています。こうした情勢の変化に機敏に対応しつつ、さらに長期の50年100年先の緑生都市の姿を見据えた上で、特に重要でありかつ戦略的に取り組むべきものを「緑の戦略プロジェクト」として位置づけます。

なお設定にあたっては前項で示す施策展開の方向のうち、「安全安心」で、「人と環境にやさしく」、「魅力と活力」にあふれたまちづくりをめざす上で緑が先導的役割を担うべき取り組みであり、民・学・産・行政の協力に基づいて推進すべきものとしします。

1. 緑をまもり育て、未来へつなぐ「六甲山プロジェクト」

近年の集中豪雨の多発や世界的な地球環境問題への関心が高まる一方、六甲山の一部では森の手入れが十分に行き届かないため、一部で森林の荒廃が進んでいるところが見られます。そのため、土砂災害などから市民の生命と財産を守るなど六甲山の緑に求められる役割はますます大きくなっています。

2. 港都の魅力を緑で創造する「都心・ウォーターフロントプロジェクト」

今後、国際的な都市間競争が激化する中で、神戸がこれからも持続的に発展し、選ばれる都市であり続けるためには、国際港都として港とともに発展してきた神戸において、特に都心・ウォーターフロントにたくさんの人たちが訪れたいようになるように磨きをかけていく必要があります。

3. いきものとの共生関係を緑で築く「生物多様性保全プロジェクト」

生物多様性保全に対する重要性がますます高まる中、現在事業が進められているしあわせの森及び国営明石海峡公園（神戸地区）の一角は、大都市の中において緑豊かで広大な里地・里山の自然環境が残されており、こうした恵まれた自然環境を次世代に継承していく必要があります。

1. 緑をまもり育て、未来へつなぐ「六甲山プロジェクト」

◇主な取り組みイメージ

★六甲山森林整備戦略の策定

六甲山のこれからの100年を見据え、六甲山に関わるすべてのものが、ともにめざす長期的な取り組みを盛り込んだ将来構想を策定していきます。

★六甲山の保全・育成

民有地も含めて、除伐・間伐、下草刈り等の森林整備を幅広く展開します。また、国・県・市の緊密な連携及び適正な役割分担により、効率的な森林整備を実施します。

★民・学・産・行政による連携方策

市民団体・NPO・学校・事業者・行政等が協働で森づくり事業を実行し、発信する体制（プラットフォームの設置など）を整備します。

★バイオマス資源の活用

間伐材や枝条等の林産物を、エネルギーや資材として活用します。

★森林に関する人材育成

森林の手入れに関する知識・技術を持ち、技術指導や助言及び森の魅力を伝える人材を育成します。さらに森林を支える産業分野の育成を図ります。



六甲山系と海の眺望



六甲山での取り組みイメージ

2. 港都の魅力を緑で創造する「都心・ウォーターフロントプロジェクト」

◇主な取り組みイメージ

★眺望景観や風の道の形成

海や山への眺望を良くし、神戸らしい個性豊かなまちなみをつくれます。また、潮風や山からの爽やかな風がまちを通り抜けるよう、風の道を意識したオープンスペースや歩行空間を形成します。

★オープンスペースの創出

波止場町1番地、新港突堤の周縁、京橋ランプ周辺などでは、来訪者にとって心地よい空間とするため、緑や花で彩るとともに、賑わいづくりに寄与する広場や水を感じられるプロムナード等の整備を行います。

★回遊性の向上

海や緑といった自然を感じながら歩行者が快適に散策できるように、要所に設けられているオープンスペース間をプロムナードなどでつなぐことにより、東西方向の連続性を確保します。

★協働による質の高いまちなみの形成

民有地ではオープンスペースやプロムナード等の設置を誘導し、ネットワーク化を図るとともに市民・事業者・行政等が協働して、緑や花による彩りある空間の演出やオープンカフェなど賑わいを創出していきます。



都心・ウォーターフロント



波止場町1番地のイメージ(「港都 神戸」ランドデザインより)

3. いきものとの共生関係を緑で築く「生物多様性保全プロジェクト」

◇主な取り組みイメージ

しあわせの森と国営明石海峡公園(神戸地区)を神戸市における生物多様性保全のシンボル拠点として位置づけ、周辺施設とも連携を図るとともに、市民やNPO、学校、事業者、行政(国・県・市)が協働して、新たな取り組みを展開していきます。

★生物多様性 森の保全・育成

- ◎希少植物であるキョスミウツボなど、希少種の生育する環境を立ち入り制限して保全します。(専門家による保全・モニタリング等)
- ◎事業者や団体等によって森の手入れを行い、適正な樹林管理を行うとともに、環境学習の場として、また憩いや散策などリフレッシュできる空間として活用を図ります。

★生物多様性 里地里山の保全・継承

- ◎懐かしい農村風景の中での農業体験や里山の維持管理作業等を通じて、里地里山での生物多様性の再生を図ります。
- ◎樹林地や草地、湿地などからなる里山空間を、草花や生き物とのふれあいを通じた子どもの遊びや学びの空間として活用を図ります。



自然観察のイメージ(しあわせの森)



しあわせの森・国営明石海峡公園(神戸地区)の連携模式イメージ



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

City of Design
KOBE

Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008

神戸市 建設局 公園砂防部 計画課
〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号
神戸市役所2号館3階
Tel : 078-322-5422 Fax : 078-322-6087
E-mail : kouen_keikaku@office.city.kobe.lg.jp
神戸市広報印刷物登録平成23年度第154号(広報印刷物規格B-1類)



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。